



看護師の立場から 東日本大震災における災害支援活動の報告

救急看護認定看護師 酒井 麻希子

この度、4月6日～4月9日、宮城県仙台市若林区において医療チーム5名(医師1名・看護師1名・薬剤師1名・作業療法士1名・事務員1名)で主に区内の七郷小学校、七郷中学校等で医療救護活動を行いました。震災から約1カ月が経過しており、急性期での医療活動は終わっていると考えられ、自分がどのように活動できるか考えながら向かいました。

仙台市に到着した当日に七郷中学校に向かう車の中からみた景色は、ところどころ瓦の屋根が崩れている所があるものの大きな倒壊がある様子は見受けられませんでした。しかし、七郷中学校から海の方に向かっていくと仙台東部有料道路を超えたところで景色は一変しました。まるで爆弾でも落とされたかのように一面がれきとなっています。これまでにテレビでこのような光景を見ていたのですが、目の前にするとあまりの悲惨さに言葉を失いました。小学校は3階の高さまで津波が押し寄せ、教室の中や体育館の中は津波で押し流された車やがれき、大きな防風林などがつまっている状態でした。信号機もなぎ倒され、鉄骨も折れ曲がっています。家は押し流され土台の部分しか残っていません。私たちは津波の猛威を突き付けられました。そして海岸まで来るとそこには穏やかな海が広がっていました。とてもこのような光景を作ってしまった海とは思いませんでした。

活動は主に避難所ごとの担当保健師からの

情報提供を受けて、避難所で診察をさせていただきました。避難所は仕切りがなくプライバシーが守られない状況での診察をしなければならないところもありました。私たちは、患者さんの家に上がらせていただくような気持で「おじゃまします」と毛布で仕切られたわずかなスペースに入らせていただき診察をさせていただきました。被災者の方は軽症の患者さんが多かったのですが、なかには発熱と解熱を4・5日間繰り返している患者さんもいたので、総合病院を受診していただき、肺炎のため入院となりました。また診察室を確保できた所では診察時に被災の時の様子や今感じていることなどをお話ししてもらいました。患者さんの思いに心を寄せるように傾聴することを中心に活動させていただきました。

実際の活動は、2日間と短いものでしたが医師・看護師・薬剤師・作業療法士・事務のそれぞれが役割を果たしチームワークよく協力して活動できました。このような貴重な体験をさせていただいたことに感謝します。



活動場所(七郷小学校)

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。